みんなの広場

街の写真館

▶プロバスケットボールチームである埼玉ブロンコスの選手との試合も実現した「第2回障害者スポーツ室内大会」。（撮影／市民カメラマン・村田ひろこ）7月2日㈰／市民体育館

▲ミューズの大舞台で、高校生の皆さんが精一杯演じた「第21回市民文化フェア高校演劇祭2006INミューズ」。俳優の卵たちの競演です。（撮影／市民カメラマン・中村　仁）6月17日㈯／市民文化センターミューズ・中ホール

◀所沢の球児が元気いっぱい活躍した「所沢市少年野球大会」。（撮影／市民カメラマン・津田資雄）6月25日㈰／北野総合運動場

ところざわの文化財 歴史再発見 ❹

所沢の城跡・館跡

平安時代も後半になると中央の力も衰え、地方の勢力が台頭するようになります。武士の世の始まりです。当時在地の豪族は、付近の未開発の土地を開き、それを事実上の私領としていました。そして領地の自衛のために武装し、やがて武士団へと成長していったのです。

武蔵武士として多くの有力者を輩出した武蔵国一帯には、館跡や城跡が数多く残され、市内にも点在しています。鎌倉街道がこの地方を縦貫していた関係で軍勢の往来が激しく、小手指ヶ原の合戦が展開されるなど、交通の要衝でもあったことがその要因として挙げられます。

山口城跡　山口にある山口城跡は、狭山丘陵南側の村山から移り住んだ村山氏が、その土地の名「山口」の姓を名乗り居館を築いたのが始まりといわれています。城の中心部であったとされる「山口城址」交差点周辺からは、発掘調査によって関係する資料が数多く出土しています。

これまでの調査から室町時代前期ごろまでは、屋敷地の様相を呈していましたが、次第に防衛の目的から城郭化していったようです。現在は、道路や鉄道あるいは住宅の建設などにより城の原形は残されていませんが、交差点付近に残された土塁（土を築いて作られた小山）は、その面影をわずかにとどめています。

滝の城跡　大字城にある滝の城跡は、室町時代に大石氏が築造し、その後小田原北条氏が増築、拡張したと考えられています。南側を柳瀬川が流れ、高さ約20mの急な崖の上に立地しており、戦国時代には多摩西部と北関東の諸城を結ぶ「伝えの城」として重要な役割を担っていたようです。

現在も土塁や堀跡、櫓台等が残っています。なお、山口城・滝の城はともに江戸時代以降、宅地や耕地、山林へと変わっていきました。

一口メモ 防犯

～自動車や自転車の盗難・車上荒らしに注意しましょう～

コンビニエンスストアでの買い物や子どもの送り迎えなど「ちょっとの時間だから大丈夫！」と、車のキーをつけたままにしたり、車内にバッグ等を置いたままにしたりしていませんか？犯人はこうしたスキをねらっています。

たとえわずかな時間でも、車から離れるときには車のキーを抜いてドアロックし、バッグ等は必ず車から持って出るようにしましょう。

また、自転車を駐輪するときには、必ずカギをかけるようにしましょう。

★★被害を防ぐためには★★

①車から離れるときは必ずキーを抜きドアロックする
②車の座席にバッグや貴重品、上着などを放置しない
③管理の行き届いた駐車場、駐輪場を利用する
④自転車はワイヤー錠などで二重にカギをする

問い合わせ　防犯対策室（☎2998-9090・FAX2996-0015）

はつらつ野老っ子

一人でも多くの人にこの音楽を届けたい

可児　波起さん（若松町在住）

ディスクジョッキーが、リズムを強調して語るような歌い方が特徴のラップ。STAND　WAVE（スタンド　ウェーブ）は、このラッパーである可児さんが率いる３人のグループです。

可児さんは、市内の小・中・高等学校を卒業しました。小学５年生のころ、自宅にあったギターでフォークソングなどを弾き始めたのが音楽との出会いでした。高校時代はエレキギターを持ち、ロックなどの激しい曲を中心にバンド活動をしていました。

「高校卒業の年には、フォークソングの素晴らしさを再発見し、友人２人と商店街で歌っていました」と当時を振り返ります。

幅広い年代層に曲を届けたいという思いから、作詞作曲をする中でも特に歌詞を大切にしているそうです。《生きる》《大自然》という普遍的なテーマを、分かりやすい言葉で表現し、心地よいメロディーで聞かせてくれます。

そんな可児さんは、ホームヘルパーの資格を持ち、市内の自立支援ホーム“ととこの家”のスタッフとして働いています。「障害のある方が地域で暮らしていくための支援を行う経験から、音楽を通して《生きる》素晴らしさを伝えようと強く思うようになった」と曲作りについて熱く語ります。

可児さんたちの思いは、この夏に最新ミニアルバム『大樹』の全国発売という形で実を結びます。

地元で生まれ育った可児さんは、「緑が豊かで都心からも近い所沢は、さまざまな分野のミュージシャンや芸術家、クリエーターたちがミューズなどの文化施設に集まって来る、自然と都会とのほどよい距離感がある街です」と所沢の魅力を語ります。

地元のイベントにも数多く出演しているSTAND　WAVEは、８月にも市内でライブを行います。皆さんもこの機会に彼等の音楽が創りだす世界に触れてみませんか。

♪♬♪ STAND　WAVE　夕涼みライブ（入場無料）♪♬♪

▶とき　８月19日㈯　午後７時～（受付　午後６時30分）▶会場・問い合わせ　井筒屋町造商店（寿町29-７）／☎・FAX2923-1453

レッツボランティア

【学生たちによるボランティアグループ】
～若者達の行動力！～

所沢には、学生たちが立ち上げたボランティアグループがいくつかあります。その1つが、早稲田大学所沢キャンパスの学生たちによって1995年に結成された「Man-vo.（マンボー）」です。軽度知的障害の方とバスケットボールなどのスポーツを楽しんだり、所沢養護学校のグランドや体育館で自閉症の子どもやその兄弟姉妹と遊ぶ会をサポートしたりしています。また、市内の高齢者福祉施設でお年寄りとの会話を楽しんだり、レクリエーション活動を通じた交流も定期的に行ったりしています。そのほかにも、イベントの企画やボランティアの要請を受けて活動に取り組むこともあります。グループには他大学の学生も参加しており、大学、学年、性別に関係なく仲良くアットホームな雰囲気です。個性豊かな若者たちが、自分の好きな時間に地域に根ざした活動を続けています。

最近、手話を学ぶことを通じてボランティア活動や、他大学のボランティアグループとのネットワークを広げることを目標とした「HANDS（ハンズ）」というグループも早稲田大学で新たに立ち上がりました。若者たちの行動力には目を見張るものがあります。

上記のグループについて、またその他ボランティア活動に関心のある方は、社会福祉協議会までお問い合わせください。

問い合わせ　所沢市社会福祉協議会（☎2925-0041・FAX2925-0040）

誰でもエッセイ

テーマ　願いごと

短冊に書いた願いごと

小手指元町・出浦　由圭

今年、幼稚園に入園した４歳の息子。初めての環境に慣れるまで親子共に大変だったが、今では園でのことを笑顔で自慢げに話してくれる。

ある日「きょう　ねがいごと　かいたんだ」と嬉しそうに言った。今までは、夢とか、何になりたいの？と聞いても上手く答えられなかったので、何と書いたのか興味津々。

息子の初めての願いごとは『プールでおよげるようになりたい』だった。それを聞いただけでなぜかとても感動した。自分の思いを言葉にできるようになった。少しずつだけど、毎日しっかり成長している。

今は目を固く閉じて２秒間水に顔をつけるのがやっとだけど、今年の夏はたくさんプールで遊ぼう。夏の終わりに１mでも泳げたら最高だね！

古の人の発想

若狭・井上　美惠子

願いごとをする場所の１つに神社がある。そこには神主さんがいる。神職の位で下の位を「禰宜」という。その言葉を耳にした時、思わず野菜の「ねぎ」を連想して、「何で神に仕える人が？」と、思ったが記憶の底に沈んでしまった。

ひょんなことから、日本人の宗教に対する心の軌跡が知りたくて神社巡りをしている。信仰ではない。回数を重ねていくうちに、沈んだ記憶が目を覚まし、「禰宜」の語源があるはずだと思うようになった。数年前のある日、謎が解けた。

「禰宜」は「願い」の古語で、「祈ぐ」の名詞。まさしく願いごとのお手伝いをしてくれる人にピッタリの言葉ではないか。古の人の発想にその場で脱帽した。

宝くじ・・・

こぶし町・門脇　富雄

わが家の願いごとの第１は、私の正月恒例の初詣に始まる。無病息災・交通安全・家内安全等々、おかげさまで平穏無事に暮らすことができる。

願いを求める場は無限。「宝くじ」を買い求める万人が当選を祈念し、夢見るのは絶大な願いごとではあるまいか。

昨年、わが家でツバメの巣づくりが始まった。この広い世の中でなぜわが家を選んでくれたのか、縁起のいいことこの上ない。しかし、事情があって不幸にして長く住み着いてもらうことができなかった。惜しまれてならない。なぜ巣立ちまで面倒を見てやれなかったのか。願い叶って巣立ちまで見届けていれば、宝くじも高額当選していたかも……

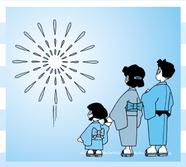
母に会いたい

小手指町・長沼　典子

「家族の健康と安全」「自由に使える時間がほしい」など、私の願いは現実に即したものだった。しかし今では、「母に会いたい」という非現実的な思いが勝るようになった。

３年前、突然天国へ旅立った母亡き後、いかに私たち家族を慈しみ、常に陰で支えてくれていたのかと、ありがたさが日ごとに募り、遅ればせながらも感謝の心を伝えたいと、とみに思う。また、老いていく心細さや心臓病の持病を抱えた不安な日々をしっかり励ましてあげられなかったことを悔い、深く詫びなければと繰り返し思う。

遺影に好物のさくらんぼを供えても、１つも減らない現実をかみしめながらも、温かい母の肌にもう一度触れたいと、ただただ願うのである。



次回のテーマは「双子」です

▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「双子」▶締め切りは８月８日㈫必着▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木1-1-1所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係◎Eメール（アドレスa9024@city.tokorozawa.saitama.jp）も可。